

次期
北九州市生涯学習推進計画
について

次期北九州市生涯学習推進計画の策定について

(1) 計画の位置付け

- 北九州市基本構想・基本計画の部門計画の1つです。
- 教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けています。

(2) 計画期間

令和8年度～令和12年度の5年間

(3) 計画の対象

主に「社会教育」「家庭教育」分野

(4) 策定作業

- ・ 社会教育委員会議を中心に次期計画の策定に向けた議論を行います。
- ・ 次期計画策定に係る社会教育団体等へのヒアリングの実施を予定しています。
- ・ 学識者による有識者会議の開催を予定しています。

(5) 策定スケジュール

時 期	項 目
令和6年11月	令和6年度 第2回社会教育委員会議 計画策定に向けて意見交換
令和7年2月	令和6年度 第3回社会教育委員会議 第2回意見交換を踏まえた整理
令和7年5月	令和7年度 第1回社会教育委員会議 次期計画のたたき台に関する議論
令和7年8月	令和7年度 第2回社会教育委員会議 次期計画の素案に関する議論
令和7年9月	常任委員会報告
令和7年11月	パブリックコメント
令和8年2月	令和7年度 第3回社会教育委員会議 次期計画の最終案に関する議論
令和8年3月	常任委員会報告
令和8年4月	教育委員会議報告
令和8年6月	議会報告

社会教育委員会議でのグループワーク(案) <60分間>

- ・社会教育委員を3グループに分けて、以下の流れでグループワークを実施。
- ・グループワークの内容は次期生涯学習推進計画のキーワードを考える。
- ・全体進行は生涯学習課、グループ内の進行・進行補佐は社会教育主事が務める。

No.	作業等	担当	時間
1	生涯学習・社会教育に関する説明	生涯学習課より生涯学習・社会教育に関する説明を行う	10分
2	グループワーク①	1. 次期推進計画のキーワードを挙げる（付箋に記入） 2. グループ内で記入したキーワードとキーワードを挙げた理由をシェア	17分
3	グループワーク②	1. グループ移動（グループ内で別のグループに移動する人、グループに残る人を決める、最低1名がグループに残る） 2. 移動後のグループで、それぞれのグループで出たキーワードやその理由をシェア	12分
4	グループワーク③	最初のグループに戻り、他のグループのキーワードも参考にしながら、改めてキーワードを整理し、グループで重要と考えるキーワードを整理する	12分
5	キーワードの共有	各グループの社会教育主事から重要と考えるキーワード発表	9分

令和6年11月7日 社会教育委員会議

次期生涯学習推進計画の策定へ向けて

生涯学習・社会教育を取り巻く社会変化

- ① VUCAの時代の到来
- ② ウェルビーイングの実現
- ③ 持続的な地域コミュニティづくり

① VUCA の時代の到来

今後5年間で約4分の1の仕事が変化

2027年までに約6,900万人分の雇用が創出、
8,300万人分の雇用が消滅、約2%が純減

不確実性が高く、将来が見通せない時代

コロナウイルスの蔓延、災害、軍事衝突

AIやその他のテクノロジーの急速な進歩…



早まる知識・技能の陳腐化、知識・技能の相対的価値の低下



年齢を問わず常に学びを通じて

幅広い知識と柔軟な思考力を更新しつづける必要性

リカレント教育
リスキリング

【世界経済フォーラム「仕事の未来レポート2020」】

- 自動化、機械の分業により、世界中で今後2025年までに
8,500万人の仕事がなくなり、新たに9,700万人の仕事が生まれる
- 「ピープル・スキル」（他人に対していかに愛情をもって接するための、①傾聴スキル、②自己主張スキル、③対立解消スキル）を活かしたポジションの需要が高まる
- 将来最も競争力の高い企業として生き残るための条件は、
現在の従業員のリスキリング（再訓練）やスキル向上への投資となる

【世界経済フォーラム「仕事の未来レポート2023」】

- 今後5年間で約4分の1の仕事が変化すると予測
- 2027年までに約6,900万人分の雇用が創出される一方、8,300万人分の雇用が消滅する
- その結果、現在の雇用の約2%が純減する

リカレント教育

学校教育から離れた後も、必要なタイミングで再び教育を受け、就労と教育のサイクルを繰り返すこと。生涯にわたって学びと労働を循環（recurrent）すること。

25歳以上の「学士」過程への入学者割合を見ると、日本の割合は非常に低く（諸外国平均が20%に対して日本は2%）、大学・大学院の正規課程で学んでいる社会人の割合が低いと考えられる。

その原因としては、企業の意識・制度、日本人の働き方、大学等のプログラム開発などが挙げられている。

リスキリング

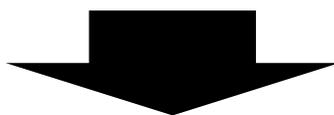
新しい仕事のために必要となる知識・スキルの習得すること。主に社内研修や短期的な講座受講を通じて行われる。

特に日本の場合は、IT（情報技術）・AI（人工知能）の人材不足の観点から、リスキリングによる人材育成の必要性が指摘されており、国においても助成金や給付金の支給、プログラム開発支援、専門人材の派遣等に取り組まれている。

② ウェルビーイングの実現

- ・ ウェルビーイング = 心身ともに満たされた状態のこと
- ・ 個人の「幸福」 + 周囲の「場」が良い状態

生涯学習（ボランティアや趣味など）を通じた
人と人との繋がり作り、自己実現



個人の幸せ、良好な人とのつながり・関係性



ウェルビーイングの実現

『富』や『名声』ではなく、『良い人間関係を築くこと』

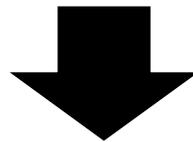
それこそがもっとも大きな幸せの要因

ハーバード大学

「ハーバード成人発達研究」

何が人々の幸せで健康な暮らしにつながるのか？

(2000人を超える人たちを80年にわたって追跡調査)



健康で幸福な人生を送るのに必要なのは

『富』や『名声』ではなく、『良い人間関係を築くこと』

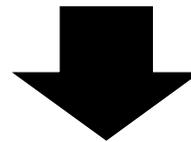
それこそがもっとも大きな幸せの要因

慶應義塾大学大学院 前野隆司先生

「幸せの4因子」

幸せに生きるために必要な姿勢や考え方を「幸せの4因子」として整理

- ①「やってみよう」因子 → **自己実現と成長**の因子
- ②「ありがとう」因子 → **つながりと感謝**の因子
- ③「なんとかなる」因子 → **前向きと楽観**の因子
- ④「ありのままに」因子 → **独立と自分らしさ**の因子



生涯学習・社会教育活動は、
学びや活動を通じた**「自己実現と成長」**や**「つながりと感謝」**といった
幸せの因子との関連性が深い

③ 持続的な地域コミュニティづくり

単身世帯数の増加
自治会・町内会の加入率の低下

地域コミュニティの希薄化

家族以外の人と全くまたはめったに
付き合わない人の割合 先進38カ国中トップ

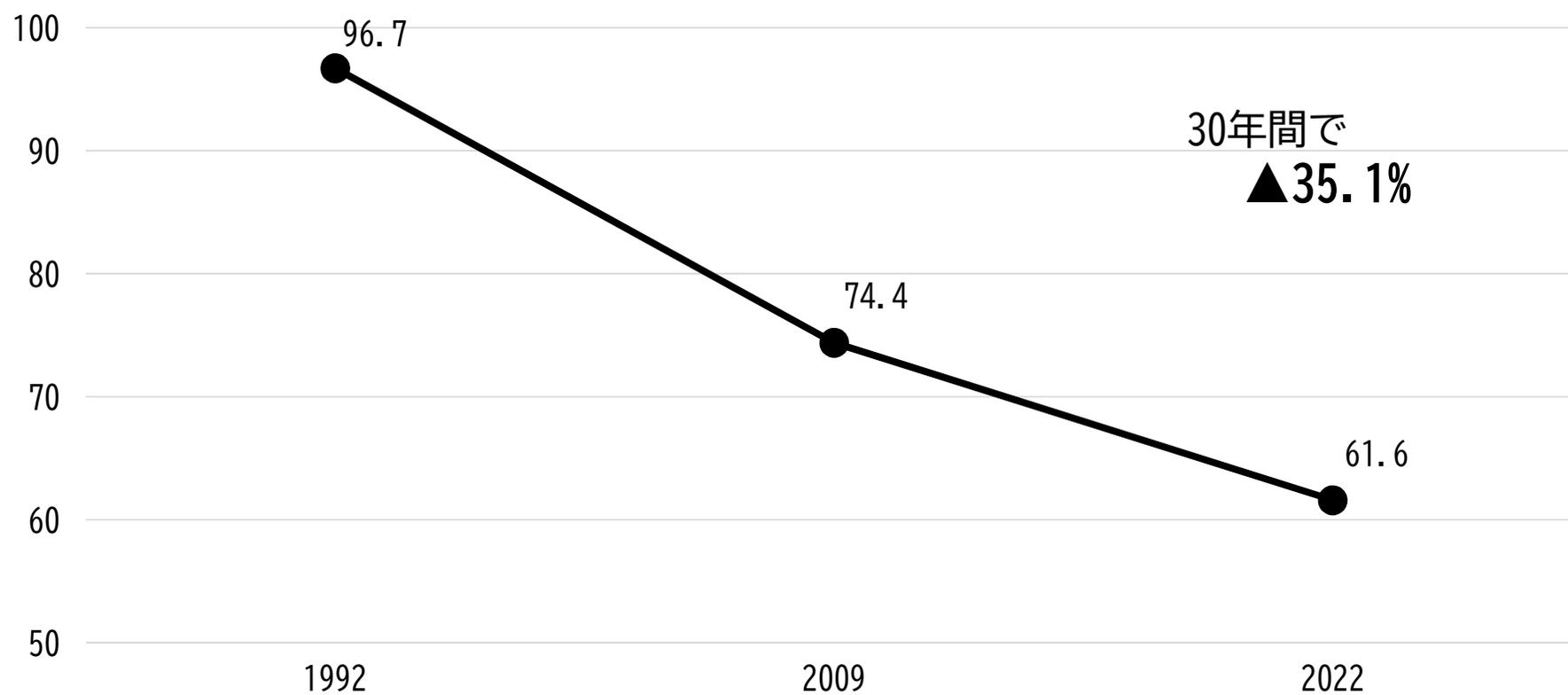
20代で孤独を感じている人の割合：47%

孤立化（つながりが少ない状態）・孤独化（主観的な感情）
共助の衰退（自助・自己責任の拡大）

学びや様々な活動を通じた
人と人の 繋がり作り、地域づくりの重要性

※資料のみ

北九州市の自治会加入率



「**孤立**」・・・客観的に見て他者とのつながりが少ない「**状態**」

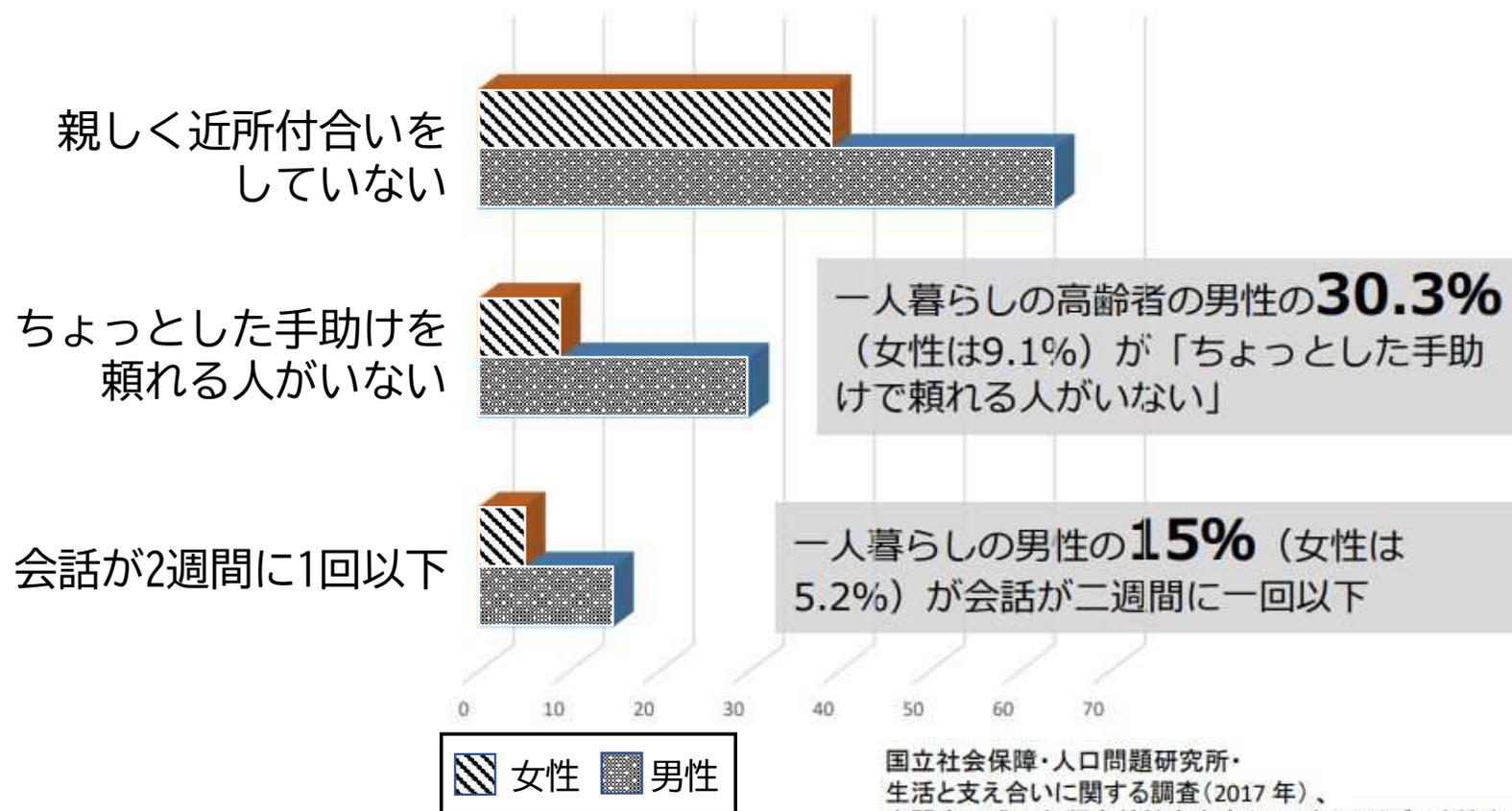
孤立しやすい人の特徴は「男性」や「高齢」

「**孤独**」・・・寂しいというような主観的な「**感情**」

孤独を感じやすいのは「女性」や「若者」

※孤独を感じている人は孤立していることが多く、孤立している人は孤独を抱えやすい

一人暮らしの高齢者の孤独度



死亡リスクの比較

孤立 社会との
つながりが
少ない **約1.9倍**

喫煙 **約1.6倍**

過度の飲酒 **約1.4倍**

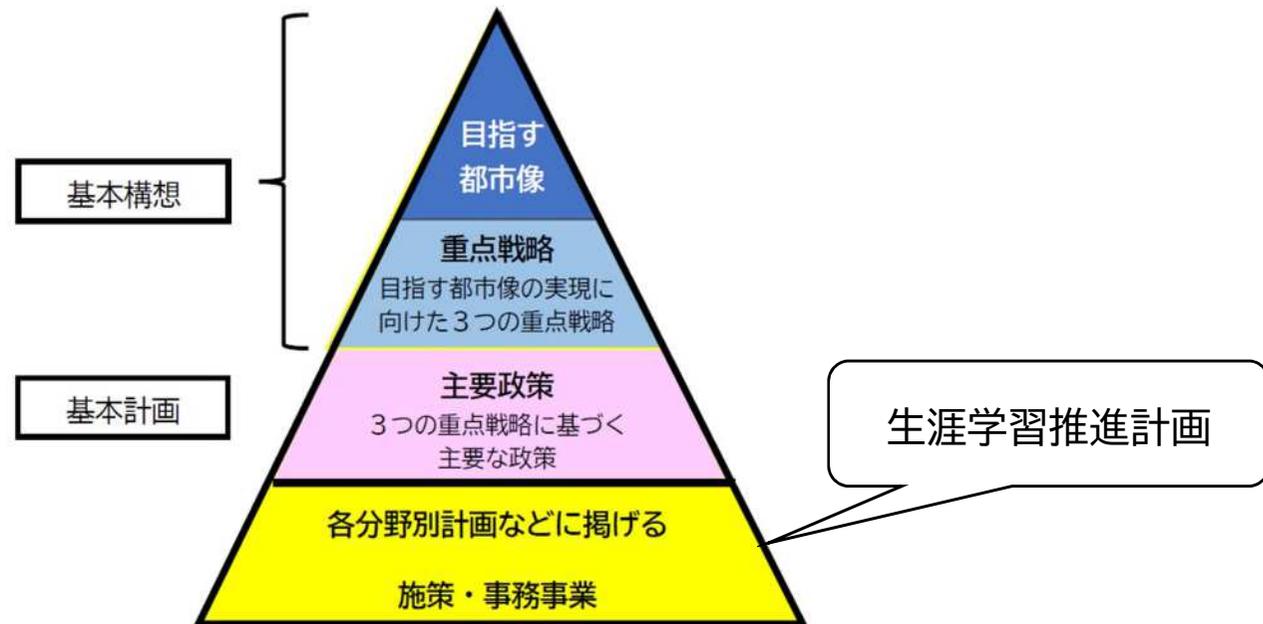
肥満 **約1.2倍**

Holt-Lunstad J, Smith TB, Layton JB (2010) Social Relationships and Mortality Risk: A Meta-analytic Review. PLoS Med 7(7): e1000316.

本市の方向性

令和6年3月
北九州市基本構想・基本計画

- 今後の北九州市のまちづくりの方向性を明らかにした「基本構想」
- 基本構想を実現するために、重点的に取り組むべき主要な政策を体系的にとりまとめた「基本計画」



北九州市が目指す都市像

つながりと情熱と技術で、

「一歩先の価値観」を体現する

グローバル挑戦都市・北九州市

目指す都市像を実現するための
3つの重点戦略

- I 「稼げるまち」の実現
- II 「彩りあるまち」の実現
- III 「安らぐまち」の実現



新ビジョンの重点戦略



「稼げるまち」

まちの変化・飛躍を時を捉えて、
都市の経済力を高めていく



「彩りあるまち」

年齢や性別、国籍、障害の有無などに
かかわらず、自分らしさを大切にできる、多様な
選択肢があるまちへ



「安らぐまち」

安全・安心な暮らし、お互いを尊重し、
支え合う包摂的で心豊かに
暮らすことができるまちへ

「安らぐまち」の実現

2 暮らしの「安心」を支える

(4) 地域におけるコミュニティ活動などの活性化

地域におけるコミュニティ活動を維持するとともに、時代の変化に伴う多様なニーズに対応した地域づくりを進めるため、社会貢献意識が高い若者やNPO、子育て・現役世代なども地域活動に参加しやすい仕組みの強化に取り組みます。

(5) 生涯現役に向けた健康づくりや社会参加の推進

生涯を通じて健康でいきいきと心豊かに暮らすことができるよう、市民の健康リテラシー（知識）の向上や健診受診・生活習慣の改善などによるヘルスケアを推進します。また、文化芸術・スポーツ活動などの生涯学習や社会参加を促進するとともに、学習活動と地域・ボランティア活動のマッチングも進めます。

国での議論・計画

令和4年8月

第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

- 生涯学習は、一人一人がより豊かな人生を送ることができるよう、個人の自発的意思に基づいて行うことを基本として、生涯を通じて行うもの。
- 生涯学習は、多様な年代、多彩な属性の他者と共に学ぶことも多く、他者との関係性の中でより豊かな学びにつながるものであるため、ウェルビーイングの実現と密接不可分である。
- 学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生むという社会教育が担ってきた機能が重要視されている点に改めて着目すべき。
- 社会教育の振興は、国・地方公共団体が取り扱うコミュニティ施策による課題解決を支えるという点で重要。
- 未来志向で「こうありたい自分、こうありたい地域の姿」を住民自治の観点から考え、そのために必要な学びとその成果が循環する社会教育を基盤とした地域コミュニティが形成されれば、様々な課題が深刻な問題となる前に地域で解決できることが期待。
- 住民自治を支える社会教育は、持続的な地域コミュニティを形成する、社会全体の基盤である。

令和5年6月 第4期教育振興基本計画(R5～9年度)

- 計画のコンセプトは、将来の予測が困難なVUCAの時代の到来等を背景に「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」。
- 「持続可能な社会の創り手の育成」は、受け身ではなく、自ら持続可能な社会を切り拓いていく人材を育成。
- 「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」は、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることを目指すもの。
- 生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点も大切。
- 社会教育は、地域住民が共に学ぶものであり、地域コミュニティ形成の営みという性格を強く有している。近年、地域課題の解決に向けて、関係省庁が地域コミュニティに関する政策を提示しているが、これらの政策は地域コミュニティが維持されてこそ機能することから、社会教育が重要となる。
- 計画が目指す社会の実現には、これらの取り組みを推進することで、生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等を通じた当事者としての地域社会の担い手の育成が必要であり、生涯にわたって学び続ける生涯学習社会の実現が不可欠である。

令和6年6月 中央教育審議会社会教育人材部会 社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について

- 社会教育活動をオーガナイズできる社会教育人材が果たす役割は大きく、質的な向上や量的な拡大が必要。
- 社会教育主事、社会教育士の役割はそれぞれ「地域全体の学びのオーガナイザー」、「各分野の専門性を様々な場に活かす学びのオーガナイザー」。

※オーガナイズ：まとめる、整理する、組織する

令和6年6月 第12期中央教育審議会生涯学習分科会における論点の整理

- 目指すべき姿として、「経済的豊かさのみならず精神的な豊かさから幸福や生きがいを捉える『ウェルビーイング』を目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」
- 今後の方向性として、「デジタル社会への対応」「社会的包摂への対応」「生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方」「生涯学習を進めるうえで、各学校教育段階で目指すべきもの」「社会人のリカレント教育」を論点として議論。